

## 語人声天

人生には二つの穴があるとい  
う。お金を入れる穴と、出す穴  
だそう。多くの人は、入れる  
穴の直径より、出す穴を小さめ  
にして暮らしているのだと、人  
間通で知られた文学者の高橋義  
孝が書いている▼世間には、入れる穴を  
広げる金もうけこそ人生だと考える人が  
いる。片や、出す穴をできるだけ大きく  
して、お金を使うのが人生だと考える人  
もいる。人生色々だが、入れる穴が小さ  
いのに、出す穴ばかりが大きければ、こ  
れは早晩行き詰まる▼さて、この国の穴  
はどうだろう。きのう成立した新年度予  
算の一般会計総額は過去最高の92兆円に  
のぼる。だが税収は37兆円。入れる穴は  
出す穴の半分もない。新規の国債は44兆  
円。借金が税収より多いのは、当初予算  
では戦後初という。数字はどれも空恐ろ  
しい

▼今日をしのぐ借金は、子や孫の代  
を質草にした借り入れだ。いきおい次世  
代は、先の難儀を予想して身構える。あ  
る大学生調査では、退職後に頼れるのは  
「貯蓄など自努力の資産」だと3分の  
2が答えていた。「公的年金」は2割に  
満たなかった▼若者に老後を聞くのも無  
粋だが、退職後の生活費の準備をいつか  
ら始めるかも聞いたそう。8割が学生  
時代から30代までにと答えたという。何  
だか彼らに申し訳なくなる▼国家財政の  
話ではないが、あれやこれやと事を後世  
に押しつける風潮に、明治の毒舌家齋藤  
緑雨はかみついた。「なりたくなきは後  
世なるかな。後世はまさに、塵芥掃除の  
請負所の如くなるべし」。ツケを回さぬ  
ための議論は、もう待ったなしである。

<2010・3・25>

朝日新聞(朝刊)